

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	きずなの虹			
○保護者評価実施期間	令和 7 年 2 月 13 日 ～ 令和 7 年 3 月 1 日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数)	8
○従業者評価実施期間	令和 7 年 2 月 13 日 ～ 令和 7 年 3 月 1 日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7 年 4 月 28 日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・プログラムが充実 夏休み・冬休み・春休みなど学校の長期休み期間中は毎日異なるプログラムを提供している。	・プログラム担当チームがプログラムを検討し、特に長期休業期間前には全スタッフ（社員とアルバイト全員）で意見交換を行って内容をブラッシュアップしている。	・プログラム終了後や長期休業期間終了後のスタッフ間の振りかえりを行うことは当然のこととして、児童や保護者からのプログラム評価をさらに丁寧に行い、以降のプログラム立案に活かしていく。
2	・教育機関、福祉施設との密な連携や情報共有による未就学児への継続的な支援	・一人ひとりの発達に応じた日々のプログラムやトレーニングの考案。	・小学校入学準備に備え日常生活動作の習得に向けたオリジナルのトレーニングを全スタッフで検討する。
3	・スタッフのコミュニケーション 時には厳しい意見が飛び交うこともあるが、支援の質を向上させるために遠慮なく意見を出し合える関係性は強みであると考えている。	・毎日の支援の開始前に行う全スタッフでのその日の動きの確認に加え、児童の様子や支援について気になっていることなどを共有し意見交換を行っている。ただ共有するだけではなく改善が必要なことは徹底的に話し合う。	・毎日のスタッフ打合せで行われる各児童の支援方法の確認や修正、共有事項などは文書化して保存されないことが多いため、これを丁寧に作って可視化することで支援のバラつきを防ぎ再確認することができる。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・事業所、事業内容ともにまだまだPR不足 HPやインスタでの情報発信は行っているが十分ではない。	・たとえばインスタは特定のスタッフが発信を担っており、HPについてはスタッフ間で内容を話し合うことができていない。	・インスタの投稿内容について定期的に意見交換し、HPについてもスタッフミーティングで検討を行う時間を確保して内容を充実していく。
2	・スタッフの専門性	・多様な専門性が求められるが、事業開始からまだ半年ほどで経験や知識を含めて十分な体制が整えられていない。	・多様な資格や経験を持つ人材の確保に向けて、人材情報サイトへの掲載を行い、HPやインスタでの人材募集を継続するほか、関係機関や保護者に対しても人材情報の提供を求めていく。
3	・柔軟なサービスの提供	・自社では他サービスが実施できていないため、利用者の情報共有が十分ではなく、受け入れ人数も限られるため要望に対応しきれていない。	・自社において多様なサービスを展開し、より柔軟に利用者のニーズに対応できることをめざす。